

## シュタイナー思想における超感覚的世界の認識について

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
人間形成・臨床教育クラスター  
呉 丹

筆者は「人間の本质とは何か」について問い続けながら、本質に関する様々な文献にその答えを求めてきた。それら多くの文献には、しばしば存在論的、形而上学的なレベルにおいて主体と客体を同一視する観点が含まれていることに気づかされる。

ドイツの思想家ルドルフ・シュタイナー（1861-1925）は、人間にとって最も内奥にあるものが「宇宙的なもの」を感じれば、人は「自由」を正しく感じとることができるのだと言う。彼の思想は、彼自身が体認した「超感覚的認識」に基づいて構築されている。筆者自身、様々な文献をとおして人間の本质を知識として理解したつもりではいるが、決してそれらを体験していない。シュタイナーのいう直観的思考体験を経てはいないという意味において、真に理解していない。シュタイナーは、悟りを得るための秘伝、すなわち、修行法を広く紹介した。ところが、これまで彼の修行法を詳細に分析した研究は見られない。したがって、本論文の目的は、彼の修行法を理論的に整理することにある。それは、筆者の問い「人間の本质とは何か」に対する答えにもつながると思われる。

シュタイナーが明らかにした修行法を理解するために、まず神智学の基本的な人間観を概観する。シュタイナーは、人間の本质を理解するうえで基盤となる九つの概念を詳述している。そしてそこには、宇宙を自己の中に映し出し、自己が宇宙とともに進化していくという考え方が見られる。また彼は、人間を「体」「魂」「霊」の三つの構成要素で説明する。シュタイナーの基本的姿勢は、いかなる人間も修行をとおして超感覚認識を獲得することができる、ということであろう。そうした超感覚的な認識の獲得は、三段階の瞑想修練、すなわち「準備」「開悟」「霊界参入」をとおして行われる。

これらの瞑想法によって、自我は魂の生活を支配し、魂は次第に浄化される。それと同時に、自我による働きかけによって、エーテル体を高次な在り方へと変容させる。そうした自我の働きかけは、肉体にも及ぶ。こうしたシュタイナーの修行法において、人間は完全に高次の真理と一体化しなければならない。その意味で、瞑想は自分自身の永遠不滅の核心を認識し、直視するための道だと言えよう。シュタイナーは、瞑想によってのみこうした直観に到ることができる結論づける。

彼の思想は超感覚的意識において言明されたものであるがゆえに、その思想内容を知るには各人が直接「超感覚的意識」を獲得するほかない。その意味で、本論文で取り上げたシュタイナーの修行法は一つの道標となるであろう。